

## 第1学年国語科学習指導案

指導者 木村 咲斤

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年・組 第1学年A組(28名)

3 単元名 おもいうかべながらよもう  
「くじらぐも」

### 4 単元の目標

(1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能〕(1)ク  
(2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

### 5 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、想像したことを伝えたり、演じたりする活動

【なりきりげきをして、とうじょうじんぶつのようなすをそうぞうしよう】

### 6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。(1)ク)	① 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ) ② 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)	① 学習課題に沿って、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、進んで動作化で表現したり、演じたりしようとしている。

### 7 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、5月教材「はなのみち」では、挿絵をヒントにしながら場面の様子確かめる学習を行った。挿絵の並び替えをしたり、挿絵の様子を比較したりしながら、気付いたことを伝え合い、内容の大体を捉えることができた。6月教材「おおきなかぶ」では、教科書の本文を読み、登場人物の言ったことを考え、場面の様子を想像する活動をした。「ここではこんなことを言っていそうだ。」と場面の様子から思い付いたことをつぶやき、登場人物が言ったことを吹き出しに書き、伝え合った。「まだぬけないな。」「〇〇を呼んでこよう。」等、場面や出てくる登場人物の順序を理解し、本文の内容を捉えることができた児童がほとんどだった。

児童の中には、おじいさんがかぶをずっと引っ張っても抜けない様子から「暑いなあ。」「ちょっと休憩しよう。」等、場面の様子から具体的に想像したことを吹き出しに書いている児童もいたが、全員が場面の様子を具体的に想像するところまで至っていない。

音読については、繰り返しの言葉を楽しみながら読むことができた。場面によって声の大きさや高さを変えながら、工夫して音読する様子もみられた。しかし、中には言葉をまとまりとして読むことが難しく、一文字一文字読む児童が3～4名いる。

## (2) 教材観

本単元は、主な指導事項として「C読むこと」の(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を設定している。これは、中学年では「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」に発展していく内容となっている。

子供たちが校庭で体操をしていると、空に大きくくじらぐもが現れる現実世界から物語が始まり、くじらぐもに乗って空の旅を楽しむ空想の世界へと入っていく。子供たちは空想の世界で存分に遊んだ後に、また現実の時間と空間に戻るため、児童が安心して空想の世界を楽しむことができる物語である。

始めの場面は、児童の学校生活と重なるところがある。幻想の世界へと想像力をかき立てられる内容となっており、登場人物の行動を具体的に想像することに適した教材であると考えられる。また、この物語は、空にいるくじらぐもと、地上の子供たちとの掛け合いを中心に展開されていくため、場面の様子に着目して読むことが求められる教材であると考えられる。教材文の挿絵はたくさんの子供たちが表情豊かに描かれており、物語の世界に浸るための助けになる。さらに教材文には、「げんきよく」「はりきりました」など、様子を表す言葉があり、それらを動作化することにより登場人物の行動を想像する手掛かりになると考えられる。

## (3) 指導観

本教材は、くじらぐもに乗って空の旅を楽しむファンタジー作品であり、自由に想像を膨らませることができる教材である。そのため、言語活動として動作化を取り入れた「なりきりげき」を設定する。

本単元では、並行読書を行う。児童がファンタジー作品に親しみをもつことができるように、学校司書による中川李枝子氏のファンタジー作品の読み聞かせ会を開く。読み聞かせ会のみで終わることなく、並行読書コーナーを設け、中川李枝子氏の他の作品やファンタジー作品に触れることができるようにしておく。

これまで、さまざまな物語に触れることができるように、読み聞かせを行ってきた。読み聞かせをした本については、教室の後ろに読み聞かせコーナーをつくり、絵本の表紙をラミネートし掲示するようにしている。「この本のこんなところが面白かったよね。」「また借りたいな。」等、児童が話をする様子が見られたので継続して行いたい。

0次では、雲の様子や雲の形に関心をもつことができるよう空や雲を観察し、タブレットで撮影し、どんな雲を見つけたのか、どんな形に見えるか等、交流する。実際にくじらぐもに乗ることはできないので、くじらぐもに乗った自分を具体的に想像するために、学校の屋上から外を眺めてみたり、Google map (Google 社) を活用して、高いところから町を見たりするという体験をし、上から見た町の様子を想像できるようにする。

一次では、初発の感想を問う「おしゃべりタイム」を行う。この「おしゃべりタイム」は、5月教材「はなのみち」から取り入れており、文章を読んで面白かったところや好きなところだけでなく、不思議・謎だなど思ったところ、やってみたいこと等をなんでも言い合える時間である。「くじらぐも」を読んだ児童からは「わたしもくじらぐもをみてみたいなあ。」「どんなうたをうたったのかな。」「ぼくもってみたい。」等が挙がってくるだろう。児童から挙げられる不思議・謎・やってみたいことを大切にしていきたい。それらを基に学習課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。また、「なりきりげき」をして、登場人物になりきることで、場面の様子に着目できるようにしたい。音読の際には、動作化を通して、声の大きさや速さを工夫して音読できるようにする。また、叙述に着目し、誰が何を言ったのかを明確にし、誰が何をしたのかを捉えることができるようにする。繰り返し出てくる言葉にも着目し、響きやリズムを感じながら音読することができるようにしたい。本単元では、台本を活用する。児童が読みやすいように、教科書の本文を場面ごとに分けているものである。「くじらぐも」は、繰り返し出てくる言葉や子供たちとくじら

ぐもとの会話のやりとりが多く出てくる。主語が明確でないため、「」の部分に色分けをして線を引き、誰が、何をしたのかを明確にする。

二次では、登場人物が何をしたのか、どのような様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりしやすくなるために動作化（なりきりげき）を取り入れる。場の設定として、くじらぐもに乗る場面では椅子や台の上に乗って動作化を行うようにする。高いところに乗って高低差をつけてくじらぐもに乗った子供たちになりきることで、児童の活動への意欲をさらに引き出し、場面の様子をより想像することができると思う。また、場面の様子を表す言葉（行動、場所、色等）を台本に印をすることで、叙述に注目しながら、登場人物が言ったことを考えることができるようにする。印をする前に、教師による「ダウト読み」をする。「ダウト読み」は、教師が注目してほしい言葉を意図的に読まなかったり、他の言葉に変えたりする読み方である。児童が教師の間違いに気付く、場面の様子を表す言葉を見付けることができると思う。さらに、登場人物が言ったことを吹き出しカードに書き、台本に貼っていくことができるようにする。吹き出しカードは、考えが変わったときに、貼り直しが簡単にできるよさがある。人物が言った言葉を考える際に「気持ちいい。」「海が見える。」等、単純な答えが予想される。具体的に想像することができるように、なぜそう言っているのか、そこからどんなことを感じるかを問うようにする。

本単元では、動作化をしたり、台本に書き込んだりする活動を設定している。児童の思考が途切れることがないように、楽しく自由に活動する時間を確保し、想像できるようにグループでの活動を設定する。また、自分のグループだけで考えたことだけでなく、他のグループが想像したことを全体で共有することで、友達の考えを聞くことができ、想像をすることの面白さや楽しさを見付けたり感じたりすることができるようにしたい。

三次では、物語全体を通して場面の様子を想像してきたことを吹き出しの記述を基に思い出しながら、家の人に手紙を書き、単元の振り返りとなるようにする。

## 8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校司書による雲にまつわる本や中川李枝子氏の本の読み聞かせを聞き、ファンタジー作品や作者に親しみをもつ。</li> <li>○どんな雲を見たことがあるか、交流する。</li> <li>○どんな雲があるか、運動場から空を眺める。</li> <li>○マップを見たり、学校の屋上に行き、高い場所からの眺めを体感したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に興味をもつことができるように、並行読書コーナーを設置する。</li> <li>・上から見た町の様子を想像できるように、Google map (Google 社) を活用する。</li> <li>・空の様子や雲の形に関心をもつことができるよう、タブレット端末を用いて雲を撮影する。</li> </ul>	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物の行動で「なんで」「不思議」「やってみたい」と思ったことを伝え合い、学習課題を設定して、学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対する関心や意欲を高め、学習の見通しをもつことができるように、大きなくじらぐもの挿絵を提示する。</li> </ul>	

	2	<p>○挿絵を手がかりに、大まかなあらすじを捉える。</p> <p>○誰が何をしたのかが明確になるように、台本の「」の部分に色分けをして線を引く。</p>	<p>・誰が何をしたかが分かるように、5枚の挿絵を提示する。</p>	<p>◎「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。〔思①〕【観察・発言・記述】</p>
二	3	<p>○くじらぐもに出会ったときの子供たちとくじらぐもの様子を捉えて動作化をし、音読をする。</p>	<p>・動作化を取り入れることで、物語の世界を想像することができるようにする。</p>	<p>◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。〔知①〕【音読】</p> <p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思②〕【観察・発言・記述】</p> <p>◎学習課題に沿って、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、進んで動作化で表現したり、演じたりしようとしている。〔主①〕【観察・発言・記述】</p>
	4	<p>○くじらぐもと子供たちが呼応し合う様子を捉えて、動作化をし、音読をする。</p>	<p>・場面の様子に着目することができるように、椅子や台を使い、高低差をつける。</p> <p>・児童が自由に書き、台本に貼ることができるように、吹き出しカードを準備する。</p>	
	5	<p>○くじらぐもに乗ろうとする子供たちとくじらぐもの様子を想像して、動作化する。</p>	<p>・具体的に想像することができるように、なぜそう言っているのか、そこからどんなことを感じるかを問うようにする。</p>	
	6 本時	<p>○くじらぐもに乗っている子供たちの様子を想像して、動作化する。</p>	<p>・焦点を絞って考えることができるように、努力を要する児童には、様子を考える「子供」を限定する。</p>	
	7	<p>○くじらぐもと子供たちがお別れをする様子を想像して、動作化する。</p>	<p>・想像をすることの面白さや楽しさを見付けたり感じたりすることができるように、ペアやグループで伝え合う時間をとる。</p>	

三	8	○なりきりげきを振り返り、家の人にお手紙を書く。	・単元全体を通した振り返りを行うことができるように、くじらぐもに出会った場面からお別れをする場面の振り返りをする。	
---	---	--------------------------	---	--

## 9 単元のゴールの姿

- ・なりきりげきをすると、本とうにくじらぐもにのっているみたいだったよ。くじらぐもに「ここへおいでよう。」といわれたときは、すごくのりたくて、みんなで手をつないでひざをまげていっしょうけんめいジャンプしたよ。くじらぐもの上にのったらみんなでおにごっこをしたんだけど、ふわふわしていて走りにくくてすぐおににたっちされちゃった。そのときに、○○くんはくじらぐもの上でトランポリンみたいにぼよんぼよんはねていて、おもしろかったよ。おかあさんにもみてほしかったな。
- ・なりきりげきをして、くじらぐものべんきょうがたのしくなったよ。「おうい。」とよびかけたら、くじらぐもも「おうい。」とまねをしてきたよ。おもっていたよりひくいこえでびっくりしたなあ。くじらぐものにのるためにいっしょうけんめいジャンプしたよ。くじらぐものにのれるように、大きなこえで「天までとどけ、一、二、三。」といいながら、おもいきりジャンプするとくじらぐものにのれたよ。くじらぐもの上では、トランポリンみたいにとびはねてみたらおもしろかったなあ。おかあさんもこんどいっしょにくじらぐものにのろうね。
- ・なりきりげきをしたら、こどもたちがいったことやしたことをたくさんかんがえることができたよ。くじらぐもにのってしっぽのところにつかまっていると、おちそうになったんだけど、○○くんがたすけてくれたよ。くじらぐもの上で、みんなで「そ～ら～は～ひろい～な、おおきいな～。」って、「うみ」のかえうたをつくってうたったのがたのしかったな。また、ちがうものがたりでも、おべんきょうでもなりきりげきをしてみたいなおもったよ。

10 本時の学習（第二次6時）

(1) 目標

場面の様子に着目し、くじらぐもに乗っている子供たちの行動を具体的に想像することができる。  
〔思②〕

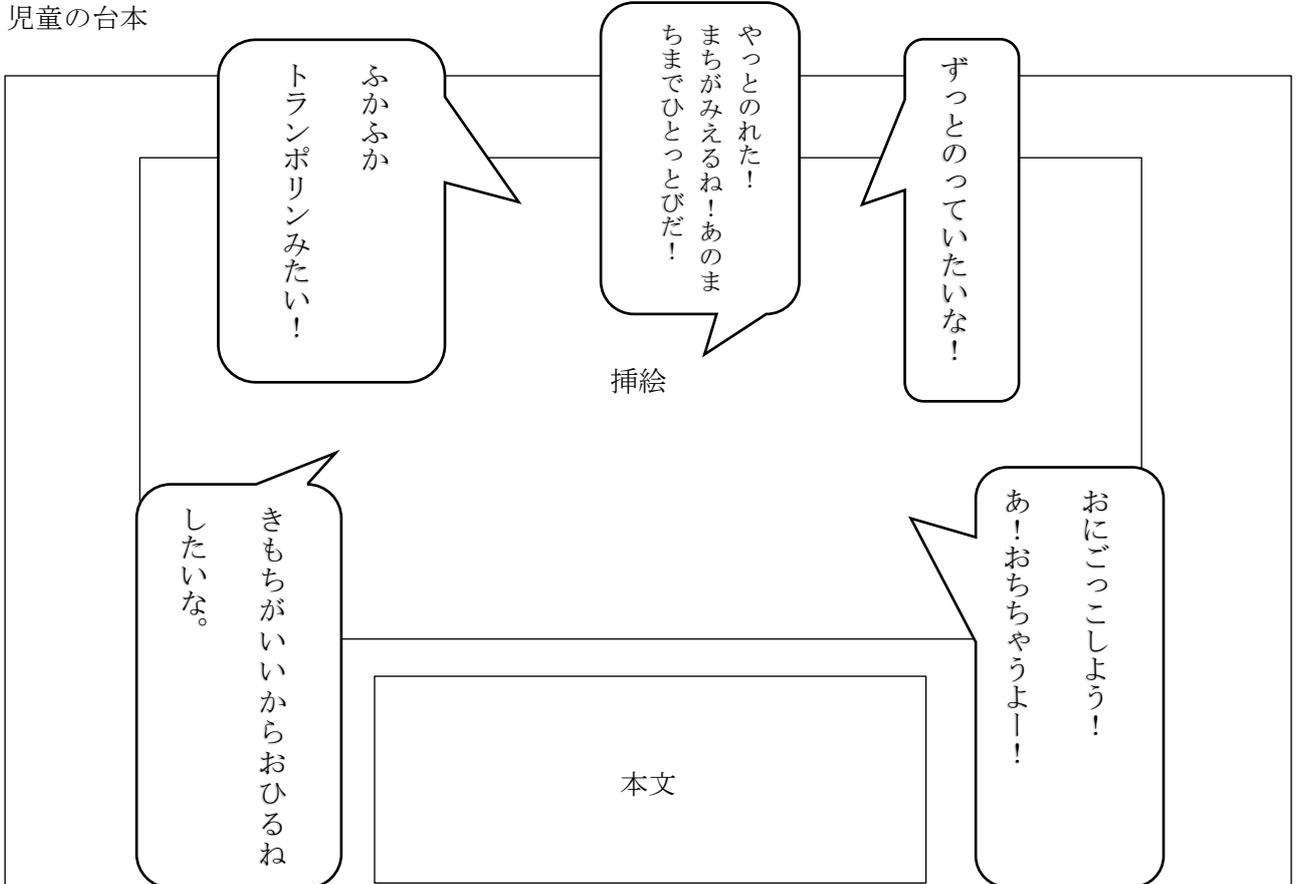
(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>・くじらぐもに乗る前の掛け声を読むことで、くじらぐもに乗ったという感覚を味わえるようにする。</p>	
<p>めあて なりきってやってみよう！くじらぐもにのった子どもたちはどんなようすかそうぞうしよう。</p>		
<p>2 音読をし、場面を確かめる。</p> <p>3 挿絵や本文から様子が分かる言葉に印をつける。</p> <p>4 グループでくじらぐもに乗った子供たちになりきり、子供たちの様子を動作化したり、吹き出しに書き込んで台本に貼ったりする。</p>	<p>・場面の様子を表す言葉に児童が気付くことができるように、教師による「ダウト読み」をする。</p> <p>・具体的に想像することができるように、なぜそう言っているのか、そこからどんなことを感じるかを問うようにする。</p>	
<p>・うみがみえる！きれいだなあ。くじらぐもからとびこんでみよう！</p> <p>・まちがみえる！あのまちまでひとつとびだ！</p> <p>・くじらぐもさんってふかふかだね。トランポリンみたいにとんじゃお！</p> <p>・かぜがふいていてきもちがいいなあ。ずっとのっていたいな。</p> <p>・みんな！しっかりつかまっていなとおちちやうよ！</p> <p>・そ～ら～は ひろい～な おおき～な～♪みんなでうたをうたうとたのしいね！</p>	<p>・自由に自分の考えを付け足すことができるように、吹き出しカードを準備し、台本に貼ることができるようにする。</p> <p>※努力を要する児童には、様子を考える「子供」を限定することで、焦点を絞って考えることができるようにする。</p>	
<p>5 全体の場で発表し、感想を交流する。</p>	<p>・聞いている人が、想像することの面白さや楽しさを見付けることができるように、なぜそう言っているのか、そこからどんなことを感じるかを問うようにする。</p>	
<p>6 本時の振り返りをする。</p>		<p>◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思②〕 【観察・発言・記述】</p>

1 1 板書計画



児童の台本



## 第1学年 国語科と平和教育のつながり

国語科  
(文学的な文章)

こえにだしてよもう  
「おむすびころりん」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・楽しく動作化することを通して、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。音読劇発表会をする際に、どのように読むかを伝える場を設定し、動作化を通して想像したことを自分の言葉で伝える。
- ・互いに音読劇を見合い、同じせりふでも読み方が異なることに気付く。一人一人が文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、感じ方や考え方を認め合う。

おもいうかべながらよもう  
「くじらぐも」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物になりきって動作化することで、場面の様子に着目し、登場人物の行動等について想像する。場の設定を工夫し、児童が物語の世界に入り込めるようにし、文章の内容と自分の経験とを結び付けて想像を広げ、想像したことを自分の言葉で伝える。
- ・登場人物になりきったせりふを書いて共有することで、友達の話聞いて「おもしろいな」と気付いたり「なるほど」と気付いたりし、感じ方や考え方を認め合う。

すきなところを見つけよう  
「たぬきの糸車」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・動作化したり、学習課題について考えたりする活動を通して理解したことを基に、物語の中で好きなおところやその理由を考え、自分の言葉で伝える。
- ・物語の好きなおところを選んで、友達と紹介し合うことによって、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりする。同じ物語を読んでも好きなおところが異なることに気付く。

他教科等

### 平和の大切さについて考えよう～本川小学校の被爆樹木を通して～

「平和とは何かを考えよう」(道徳科)

- ・「平和」という言葉について知っていることを伝え合う。

「ぼく・わたしのたからもの(平和ノート)」(道徳科)

- ・「たからもの」を読み、もしも原子爆弾で自分のたからものが消えてしまったらどんな気持ちになるか、というところから戦争の恐ろしさについて学び、自分の考えを伝え合う。

「アオギリ(平和ノート)」(道徳科)

- ・「アオギリ」を読み、人だけでなく植物も被爆したという事実を知る。それでも生き続けたアオギリの姿を見て、戦争や平和について考える。

「アオギリの願い」(生活科・道徳科・国語科)

- ・被爆した「おかあさんアオギリ」を実際に目にし、原爆によって傷ついた木の様子を知り、おかあさんアオギリの願いについて考える。

「本川小学校のニワウルシ」(生活科・道徳科・国語科)

- ・アオギリだけでなくニワウルシも被爆していることを知り、本川小学校も原爆の被害を受けたことを知る。

「アオギリについて知ろう」(生活科・道徳科・国語科)

- ・樹木医の先生から被爆樹木の歴史などについて詳しく聴くことで、当時の様子を知り、被爆樹木についての考えを伝え合う。

「1年間をふりかえろう」(生活科・道徳科・国語科)

- ・これまでの学習を振り返り、戦争や平和について考え、様々な考えがあることを知る。
- ・平和という大きなテーマから、自分たちに今できることは何か考え、伝え合う。